



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社富士ピー・エス
コード番号 1848 URL <https://www.fujips.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堤 忠彦
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 相良 祐司

TEL 092-721-3464

四半期報告書提出予定日 2023年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	11,877	9.5	176		178		90	
2023年3月期第2四半期	13,125		214		228		101	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 97百万円 (%) 2023年3月期第2四半期 107百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	5.09	
2023年3月期第2四半期	5.71	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	29,115	9,687	33.3	544.86
2023年3月期	28,791	9,928	34.5	559.42

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 9,687百万円 2023年3月期 9,928百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		9.00	9.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,280	16.5	720	225.3	700	209.5	500	304.7	28.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	18,602,244 株	2023年3月期	18,602,244 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	822,096 株	2023年3月期	854,196 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	17,756,448 株	2023年3月期2Q	17,748,048 株

(注) 期末自己株式数には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有する当社株式(2024年3月期2Q 230,600株、2023年3月期 262,700株)が含まれています。また、三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。(2024年3月期2Q 254,300株、2023年3月期2Q 262,700株)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ引き下げられ、行動制限の解除や入国制限の緩和など経済活動の活発化に向けた動きがみられ、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、緊張状態が続く国際情勢の動向に加え、原材料や燃料費価格の高騰を背景とした物価上昇や金利・為替の変動による景気への影響など先行きが不透明な状況があり、今後も引き続き注視していく必要があります。

当建設業界におきましては、若干の発注遅れはあるものの土木分野は高速道路の老朽化に伴う維持更新事業や暫定2車線区間の4車線化事業など社会インフラ整備を中心に堅調に推移しました。土木分野の先行きにつきましては、従来の公共事業関係費に加え、2021年度からスタートした政府主導の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策（令和2年12月）」や高速道路会社の「中期事業見通し」、国土交通省の令和6年度道路関係予算概算要求の内訳などから、引き続きインフラ老朽化対策など必要性の高い事業を中心に底堅く推移していくと見込まれます。

一方で、建築分野につきましては、主に首都圏を中心とした再開発事業が順調に進んでおり、市場全体の縮小には至らないと予想しておりますが、資機材や製品輸送費の高騰など建設コストは総じて高い価格水準で推移しており、生産性の向上や収益の確保に向けた施策が必須となっております。

このような経営環境のもと、当社グループは「新たな成長戦略に向けた経営リソース（人材、技術・生産設備、財務）の拡充」をメインテーマとした第5次中期経営計画「VISION2030」の3年目を迎え、これまでに整備した環境を体系的に結合し、新たな時代要求に対して「飛躍」するため、第Ⅱ期目となる九州小竹工場リニューアル工事を計画通りに進めるとともに、カーボンフリーに向けた生産現場の低炭素化を推進するための具体的なアクションのスタート、連結子会社である駿河技建㈱を核としたメンテナンス事業の拡大、ワークライフバランスの充実のための生産現場のリ・ブランディングの推進など経営リソースの充実に取り組みながら企業活動を行ってまいりました。

さらに、健康に関する福利厚生制度の充実と取り組みの実施、専門部署によるスピード感のあるDXの推進、「SDGs」の全社展開を通じた社会的な企業価値の向上のための取り組み等、生産性の向上とあわせて社員及び協力会社従業員の働き方改革の実現に向けて様々な施策を実施してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、受注高は、15,234百万円（前年同四半期比7.5%増）となりました。売上高につきましては、一部工事の着工遅延や一時中止などによる影響から11,877百万円（前年同四半期比9.5%減）となりました。損益につきましては、売上高の減少に加え工事採算性の悪化から営業損失176百万円（前年同四半期は営業利益214百万円）、経常損失178百万円（前年同四半期は経常利益228百万円）となりました。また、国道拡幅に伴う土地の収用に係る補償金の一部受領分を特別利益に計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は90百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益101百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①土木事業

土木事業は、工事の大型化・長期化の傾向がより強まる中で、長期の大型手持ち工事の確保と中・短期的な工事確保による安定経営を目指し公入札、民間受注活動を進めました。当第2四半期連結累計期間においては、NEXC O各社が進めている橋梁修繕工事でNEXC O中日本発注の西湘バイパス滄浪橋他1橋塩害対策工事を共同企業体で受注し、また同じくNEXC O各社が進める4車線化工事ではNEXC O西日本発注の東九州道臼杵川橋他1橋上部工事を単独で受注しました。この他、本社所在地の九州地区において、国土交通省九州地方整備局、および福岡県発注のPC上部工工事において、当社所有のPC工場で作成する製品を使用する工事を受注するなど、鋭意公入札への参加を進めてまいりました。また名古屋地区では大手ゼネコンが受注したNEXC O発注の大型下部工拡幅工事においてPCケーブルを使用する補強工事を下請で受注し、一方で、工場製品のプレキャストPC床版も民間営業を推し進め、受注に至りました。しかしながら、当第2四半期連結会計期間に受注を予定していたNEXC O発注の大型ECI工事の契約が、詳細設計に時間を要しているため第4四半期連結会計期間以降の契約予定となったことや前第2四半期累計期間における大型工事受注による反動などもあり、受注高は10,812百万円（前年同四半期比3.4%減）となりました。

売上高につきましては、現場施工、製品製作も概ね順調に進みましたが、一部の大型工事において工事着工までに時間を要したことによる進捗の遅れの影響が残り、当第2四半期連結累計期間においては8,945百万円（前年同四半期比11.1%減）となりました。

セグメント利益につきましては、売上高の減少に加え、採算性の高い工事の進捗が想定以上に遅延したことや、民間工事における原材料・労務費などの建設コスト高騰の影響などにより965百万円（前年同四半期比31.0%減）となりました。

②建築事業

建築事業は、遅れていた関東地区の大型再開発事業の受注に加えて、関西・中部地区におけるマンション事業の発注が順調に推移したことで受注高は4,156百万円（前年同四半期比53.2%増）となりました。

売上高につきましては、関西・中部地区で耐震補強工事等の進捗好転がありました。関東地区の大型再開発現場において元請都合による工事中断の影響を受け、2,799百万円（前年同四半期比4.5%減）となりました。

セグメント利益につきましては、採算性の高い工事の進捗が順調に推移したことで360百万円（前年同四半期比25.7%増）となりました。

③不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は、テナント獲得競争は依然として継続しているものの、安定した入居率の確保を目指して営業活動を展開した結果、受注高は264百万円（前年同四半期比3.8%増）、売上高は132百万円（前年同四半期比5.8%増）となりました。

セグメント利益につきましては、79百万円（前年同四半期比13.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は29,115百万円となり、前連結会計年度末に比べ324百万円の増加となりました。主な要因といたしましては、現金預金が437百万円、未収消費税等が613百万円減少したものの、受取手形、完成工事未収入金等及び契約資産が922百万円、未成工事支出金が213百万円、有形固定資産が232百万円増加したことであります。

(負債)

負債合計は19,427百万円となり、前連結会計年度末に比べ564百万円の増加となりました。主な要因といたしましては、支払手形及び工事未払金が852百万円、電子記録債務が303百万円減少したものの、短期借入金が519百万円、長期借入金が1,046百万円増加したことであります。

(純資産)

純資産合計は9,687百万円となり、前連結会計年度末に比べ240百万円の減少となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純損失90百万円の計上、剰余金の配当162百万円の支払いによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ437百万円減少し、1,883百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は1,265百万円（前年同四半期は919百万円の使用）となりました。資金増加の主な要因は、減価償却費の計上、未収消費税の減少によるものであります。資金減少の主な要因は、売上債権、未成工事支出金の増加、仕入債務の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は588百万円（前年同四半期は340百万円の使用）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は1,416百万円（前年同四半期は95百万円の使用）となりました。収入の主な要因は、借入金の増加によるものであります。支出の主な要因は、長期借入金の返済、配当金の支払いであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、「1.当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明」で記載した通り、建築事業では一部工事において工事中断などの影響が残っておりますが、当連結会計年度末までには概ね解消すると見込んでおり、また、土木事業では、一部工事において工事着工までに時間を要したことにより進捗遅れが発生しておりますが、当連結会計年度末までには概ね解消すると見込んでおります。また、その他の案件については、現場施工・工場生産が概ね計画通りに進捗すると見込んでおります。

したがって、当第2四半期連結累計期間における業績は、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失となっておりますが、2023年5月12日に公表いたしました「2023年3月期 決算短信」に記載の2024年3月期連結業績予想の作成時点における想定と大きな乖離はないことから、当連結会計年度における連結業績予想に変更はありません。

これに伴い、配当予想につきましても変更はなく、1株当たり9円を予定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	2,321	1,883
受取手形、完成工事未収入金等及び契約資産	15,220	16,142
製品	222	331
未成工事支出金	114	328
材料貯蔵品	196	228
未収入金	118	90
未収消費税等	989	376
その他	196	61
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	19,375	19,438
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,273	2,221
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	1,787	1,758
土地	3,609	3,609
リース資産（純額）	15	15
建設仮勘定	75	388
有形固定資産合計	7,761	7,993
無形固定資産		
のれん	420	396
その他	97	115
無形固定資産合計	518	512
投資その他の資産		
投資有価証券	159	162
退職給付に係る資産	551	570
繰延税金資産	237	265
その他	187	171
投資その他の資産合計	1,135	1,170
固定資産合計	9,415	9,676
資産合計	28,791	29,115

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び工事未払金	3,532	2,679
電子記録債務	2,251	1,948
短期借入金	5,143	5,663
未払法人税等	49	59
未成工事受入金	858	1,041
預り金	3,601	3,602
完成工事補償引当金	17	18
工事損失引当金	16	10
その他	1,003	963
流動負債合計	16,476	15,988
固定負債		
社債	63	58
長期借入金	1,240	2,287
株式給付引当金	109	105
退職給付に係る負債	738	759
その他	234	227
固定負債合計	2,386	3,438
負債合計	18,862	19,427
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,379	2,379
資本剰余金	1,770	1,770
利益剰余金	6,064	5,812
自己株式	△376	△357
株主資本合計	9,838	9,604
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	3
退職給付に係る調整累計額	88	80
その他の包括利益累計額合計	89	83
純資産合計	9,928	9,687
負債純資産合計	28,791	29,115

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	13,125	11,877
売上原価	11,370	10,472
売上総利益	1,755	1,405
販売費及び一般管理費	1,540	1,581
営業利益又は営業損失(△)	214	△176
営業外収益		
物品売却益	22	8
助成金収入	—	10
その他	30	18
営業外収益合計	52	36
営業外費用		
支払利息	12	26
支払保証料	15	10
その他	10	1
営業外費用合計	38	39
経常利益又は経常損失(△)	228	△178
特別利益		
収用補償金	—	126
特別利益合計	—	126
特別損失		
有形固定資産除却損	—	36
特別損失合計	—	36
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	228	△88
法人税、住民税及び事業税	29	30
法人税等調整額	98	△28
法人税等合計	127	2
四半期純利益又は四半期純損失(△)	101	△90
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	101	△90

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	101	△90
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	1
退職給付に係る調整額	3	△8
その他の包括利益合計	6	△6
四半期包括利益	107	△97
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	107	△97
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	228	△88
減価償却費	282	297
のれん償却額	24	24
収用補償金	—	△126
工事損失引当金の増減額(△は減少)	—	△6
退職給付に係る資産又は負債の増減額	△49	△5
支払利息	12	26
固定資産除却損	—	36
売上債権の増減額(△は増加)	673	△922
未成工事支出金の増減額(△は増加)	△56	△213
その他の棚卸資産の増減額(△は増加)	△6	△139
未収入金の増減額(△は増加)	253	28
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,111	△1,155
未成工事受入金の増減額(△は減少)	△2	183
預り金の増減額(△は減少)	661	1
未払費用の増減額(△は減少)	△185	3
未払又は未収消費税等の増減額	△1,406	603
長期未払金の増減額(△は減少)	△4	△4
その他	△95	△15
小計	△782	△1,473
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△11	△28
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△126	109
収用補償金の受取額	—	126
営業活動によるキャッシュ・フロー	△919	△1,265
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△326	△539
固定資産の除却による支出	△7	△35
貸付けによる支出	△6	△0
貸付金の回収による収入	11	2
その他	△11	△15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△340	△588
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	400	400
長期借入れによる収入	—	1,500
長期借入金の返済による支出	△326	△333
配当金の支払額	△161	△162
その他	△6	11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95	1,416
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,355	△437
現金及び現金同等物の期首残高	3,255	2,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,900	1,883

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	土木事業	建築事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,066	2,932	125	13,124	1	13,125	—	13,125
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	10,066	2,932	125	13,124	1	13,125	—	13,125
セグメント利益	1,398	287	69	1,755	0	1,755	—	1,755

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業及び建設資機材のリース等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,755
「その他」の区分の利益	0
販売費及び一般管理費	△1,540
四半期連結損益計算書の営業利益	214

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	土木事業	建築事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,945	2,799	132	11,876	0	11,877	—	11,877
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	8,945	2,799	132	11,876	0	11,877	—	11,877
セグメント利益又はセ グメント損失 (△)	965	360	79	1,405	△0	1,405	—	1,405

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業及び建設資機材のリース等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,405
「その他」の区分の損失 (△)	△0
販売費及び一般管理費	△1,581
四半期連結損益計算書の営業損失 (△)	△176

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。